

2015 年事業報告書

1. 環境対策支援及び相談事業

<1-1：環境対策支援事業>

■担当：太田（責任者）、高野

■活動対象：主に京都市内全域のお祭り来場者・主催者・関係者・ボランティアスタッフ

■事業収入額：25,276,908 円（前年度：25,704,806 円）

■実施内容：件数は横ばいの 32 件（2014 年度同数）となった。2006 年度より取り組んでいた、立命館大学が使い捨て容器への後退という事態には、今後の営業活動等も検討が必要だと考えられる。

※<1-1>別紙

（祇園祭ごみゼロ大作戦）

■担当：太田（責任者）、前田、高野

■実施内容：2013 年の祇園祭宵山期間に発生したごみの量は約 57 トン。2014 年から始めた祇園祭ごみゼロ大作戦の取り組みにより、同期間のごみの量は来場者が 12 万人増加したにもかかわらず約 42 トンとなりました。しかし、まだ多くの使い捨て容器等の大量のごみが排出されている。祇園祭ごみゼロ大作戦は、繰り返し何度も洗って使用できる「リユース食器」を露店へ導入し、ごみの減量と散乱ごみの防止を実施する日本最大級の取組。

四条通や烏丸通等にリユース食器の返却やごみの分別回収拠点として「エコステーション」を複数設置し国内外から訪れる来場者に対し、ボランティアスタッフと共に、リユース食器の回収やごみの分別の呼びかけ、散乱ごみの清掃などを行った。

<1-2：リユース食器レンタル>

■担当：前田（責任者）、高野

■活動対象

環境対策実施団体/個人・イベント主催者・会議やセミナーの主催者

地域のおまつり関係者・各区まちづくり推進課等

■事業収入額：3,957,388 円（前年度：1,919,029 円）

■実施内容：祇園祭ごみゼロ大作戦の 2 年目を終え、「リユース食器」の問い合わせや導入が大幅に増加した。特に学園祭内での新規（京都外大西高等学校、洛星中学高等学校）や前年度京都市が実施したリユース食器キャラバンで導入した 2 校の継続導入（大谷大学、京都聖母女学院短期大学）することができた。また、京都市上下水道局が行う「利き水」でのリユースカップ導入など使用数の多いイベントが増加したことより収入は大幅増となった。

事務局内では、メンバー増員に伴う業務改善を実施。レンタル受注時に作成する、計算書の改定やチェック表のオペレーション変更など、今後も増加傾向にあるレンタル事業をミスなく実施するためにコミュニケーションを密にし、日々更新している。

※＜1-2＞別紙参照

2. 持続可能な社会づくりに資する調査・研究・情報事業

＜2-1. ごみゆにけーしょん（事業委託）＞

■担当：前田

■対象：事業系廃棄物減量を目的としたフリーペーパー「ごみゆにけーしょん」の企画/編集

■事業収入額：925,000 円

■実施内容

京都市 環境政策局 循環社会推進部 ごみ減量推進課からの事業委託として「みんなに話したくなる みんなと始める」をコンセプトに、“へらす”“わける”で一步先行くごみゼロ事業所を具体的に応援するフリーペーパー。本誌は今年で5年目となるが、ecotone では、前田の産休／育休を経て2年ぶりに受託し、21～24号を発行した。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000171032.html>

＜2-2. 『星が降るとき 三・一一後の世界に生きる』の販売＞

『星が降るとき 三・一一後の世界に生きる』

三・一一後の社会をどう捉え、いかに生きるか？

日本をはじめ世界各地の研究者、活動家、生活者、芸術家がそれぞれの思いを綴ったアンソロジー。日英両文併記。

・価 格：（本体価格）2,000 円＋消費税

・サ イ ズ：小 B6 判（ペーパーバック）

・ページ数：522p

■担当：前田、内藤

■対象：日本国内

■事業収入額：7,256 円

■実施内容

新規事業として理事である内藤大輔氏 執筆／編集の上記書籍の販売を実施した。2015 年度は3冊を販売した。今後の対応について検討が必要である。

＜2-3. 「エコ学区」への『リユース食器お試しセット』提供＞

■担当：太田

■対象：京都市民

■事業収入額：916,674 円（追加発注分3件含む）

■実施内容

2013 年度から市内全 222 学区展開となった「エコ学区」に宣言した学区に配布されるエコ活

動に便利な物品として、リユース食器セットが採用されるに至った。2015 年度は 32 学区(2013 年度、2014 年度と実績と同数)から申請があり提供 1 セット 3 万円(税込)で販売を実施。あと 2 年間の事業継続ということから、来年度以降も引き続き提供し、リユース食器の認知度向上に努める。

<2—5. 関西テレビ 廃ビデオテープのリサイクル支援活動>

■担当：太田

■事業収入額：959,223 円

■実施内容

関西テレビ(株)から排出される廃ビデオテープのリサイクルをコーディネートを行った。

<2—6. エフエム大阪 生ごみダイエット大作戦！

(環境省 NP0・NGO 等の民間団体とメディアとの連携事業) >

■担当：太田、前田

■事業収入額：100,000 円

■実施内容

従前より行っていた「生ごみダイエット大作戦」を関西圏に広げるために行った当事業。

エフエム大阪で毎週金曜日に放送されている「hug+ (はぐたす)」にて、2015 年 7 月 31 日～2016 年 1 月 29 日、「生ごみダイエット大作戦」コーナーを 5～10 分間放送した(合計 27 回)。放送には毎回太田が出演し、生ごみダイエットの意義などをクイズやデータからわかりやすく解説。少しでも多くの方への周知のため、料理教室の開催や、ロハスフェスタ会場でのブースづくりなどのコーディネートを担当した。番組内で、モニターを募集し「生ごみダイエット」を実践～報告してもらい、84 世帯が取り組み CO2 削減量などを計算。番組内では、「生ごみダイエット」だけでなく、「ごみ減量」や「リユース食器の活用」など、幅広く ecotone の活動を紹介する機会となった。

http://www.fmosaka.net/_fq?q=生ごみダイエット

<https://funtoshare.env.go.jp/renkei/fts/business/business03.html>

<2—7. 京都企業グリーンイノベーション市場参入支援事業

日本の伝統「ろくろ技術」を駆使して作る製品の販売及び体験教室事業>

■担当：太田、前田

■事業収入額：403,704 円

■実施内容

株式会社(株)Hibana が一般社団法人 京都産業エコ・エネルギー推進機構より採択された、京都企業グリーンイノベーション市場参入支援事業を一部協働で実施。「木製リユース食器試験導入」と、「リユース食器の可能性 ～木の器が拓く新たな一歩～」として 2016 年 1 月 19 日(火) 19:00～21:30@京都三条ラジオカフェにてイベント開催した。いつも利用している「リユース食器」の紹介から、森の話、木地師の話など、「木製リユース食器」に関係するさまざまな話を聞いてもらい、「木のうつわ」を使い、体験しながら議論と食事を楽しんだ。

参加者は、木地師の方からの「木のうつわ」ができるまでのストーリーや工程など、さまざまな話に耳を傾けた。

<2—8. 環境と防災をテーマとした教材開発>

■担当：太田

■事業収入額：192,593 円

■実施内容

防災をテーマに活動を展開する NPO 法人プラスアーツや神戸市のクリエイティブセンター「KIITO」との協働のもと、環境と防災をテーマとしたこども向け教育教材開発をワークショップ形式で行った。